

イルカ通信

毎月1回発行
1部200円


小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)

2002年10月1日 No.003



私のイルカのーと

2002.7.4. ドルフィン << 14:10 ~ 14:45 まで >>
西島 ←→ タコ岩 ハシアガ
ハンドウ x 30以上?



背骨ラインに白の斑点が
2つあるイルカ。

圧の胸ヒレが
白の斑玉点(足跡)
があるイルカ。

私が
記録している
観察ノート
です。

ハンドウイルカは「高集合集散」マシク!!
集あてくる時は、青い海から、イルカが
登場してくるので、感動もの。
25頭手では、頑張って敬えた「アヒ」……。
この群れは、「パイロットドルフィン」お母さんかな?
親子が向まると、おんばが「方向転換してソ」。

皆さん、はじめまして。小笠原に住み、ダイビングとイルカウォッチングのガイドを始めて4年が経ちます。ほぼ毎日海に出ていて、イルカに会える日もあれば、全く会えない日も、もちろんあります。会えたからといっても遊んでくれるとは限らず、ス〜っと通過されてしまう時も……。毎日何が起こるのか、どのイルカに出会えるのが楽しみではありますがありません。イルカを観察していると『何しているんだろう?』とその行動にも興味がそそられます。

ガイドをしていて気をつけていることがあります。それは、子供のイルカがいる群れの場合には、ドルフィンスイムをする時に親もしくは、ベビーシッター役のイルカが私と子供イルカの間に入って来たら、それ以上のアプローチを控えることです。何故か? それは、子供を守っているか、警戒している時だと思ふのです。こんな時は、大抵遊んでくれないので、早々にこの群れから離れて、別のイルカの群れを探しにいきます。

海に生きているイルカです。私達は一緒に泳がせてもらうために、彼らの生活しているところにお邪魔しているのです。無理に追いかけたり、触ったりしないように。いつまでも、小笠原でドルフィンスイムができるように、イルカを『観察する』って事も大事だと思います。

境 基子 (ダイビングインストラクター/ドルフィンウォッチングガイド)

~ マッコウクジラの潜水行動調査をおこないます ~



今がシーズンのマッコウクジラウォッチング。潜水のチャンピオンと呼ばれるこのクジラに吸盤で水深計を取り付けてその潜水行動を調べる調査を東京大学海洋研究所の天野博士と共同で10月中旬に予定しています。はたして、彼らは何mまで潜るのでしょうか。また、マッコウクジラが潜っていくその深海の様子はどうなっているのかを特殊なカメラを用いて撮影する調査も国立科学博物館の窪寺博士と10月下旬におこなう予定です。調査結果がまとまったら、またみなさんにお知らせします。

森 (OWA)

小笠原ホエールウォッチング協会
〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町

URL <http://www.ogasawara.or.jp/owa>
Tel 04998-2-3215 email owa@h6.dbn.ne.jp